

主 文

被告人を懲役１年１０月に処する。

未決勾留日数中７０日をその刑に算入する。

理 由

【罪となるべき事実】

被告人は、Ａ連盟の事務局長として、Ａ連盟の預金管理等の業務に従事していたものであるが、

第１ 岐阜県関市（住所省略）株式会社Ｂ銀行Ｃ支店に開設されたＡ連盟Ｄ名義の普通預金口座の預金をＡ連盟のために業務上預かり保管中、令和３年７月２０日、同県海津市（住所省略）所在の株式会社Ｂ銀行Ｅ支店Ｆ出張所において、自己の用途に費消する目的で、同所に設置された現金自動預払機を利用して、同普通預金口座から、株式会社Ｂ銀行Ｇ支店に開設された被告人が管理する音楽工房Ｈ代表Ｉ名義の普通預金口座に現金１００万円を振込送金し、もって横領し（令和７年６月１６日付け起訴分）、

第２ 岐阜県関市（住所省略）株式会社Ｂ銀行Ｃ支店に開設されたＡ連盟Ｄ名義の普通預金口座の預金をＡ連盟のために業務上預かり保管中、令和３年８月１６日、同市（住所省略）株式会社Ｂ銀行Ｊ出張所において、自己の用途に費消する目的で、同所に設置された現金自動預払機を利用して、同普通預金口座から、株式会社Ｂ銀行Ｇ支店に開設された被告人が管理する音楽工房Ｈ代表Ｉ名義の普通預金口座に現金１００万円を振込送金し、もって横領した（令和７年４月１１日付け起訴分）。

【証拠の標目】（省略）

【法令の適用】（省略）

【量刑の理由】

本件は、Ａ連盟の事務局長として業務上管理していたＡ連盟の預金口座内の現金を個人的な借金の返済に充てて横領したという業務上横領の事案であるところ、連

盟の理事でもあり、また、吹奏楽の指導者としても周囲から信頼を受けて口座の管理を一手に担う立場にあったのをいいことに、監査の求めや周囲からの照会等にその場しのぎの対応を行って杜撰な金銭管理を行う中で本件各犯行に至ったもので、その経緯等に酌量すべき点はなく、短期間に同種事案を繰り返している点の悪質さも看過できない。被害額も合計200万円と多額である。令和3年の事件であり、現在までに金銭管理の実態を明らかにした上で被害者への説明や適切な賠償を少しずつでも進めていく機会と時間はあったと思われるのに、未だ弁償は全くなく、今後の見込みも立っていないのであって、かかる状況下では実刑を選択せざるを得ない。もっとも、刑期については、被告人が事実を認めて反省の態度を示し、弁償の意思を述べたこと、前科がないこと等の事情を併せ考慮し、主文のとおりとした。

(求刑懲役2年6月)

令和7年8月6日

岐阜地方裁判所刑事部

裁判官 戸 崎 涼 子